

教員名	唐澤達之	所属学科	経済学科
【ゼミでは何を学ぶのか】 現在の世界を見渡すと、世界全体の富は増加し続けているのに、豊かな地域と貧しい地域との格差は広がるばかりです。他方、世界経済の重心は、大西洋を取り巻く地域から太平洋を取り巻く地域に移動しつつあり、現在世界経済は、400～500年に一度あるかないかの大きな歴史的変化の時期にあります。ゼミでは、世界経済の歴史的な変化とその行く末を考えること、すなわち経済の歴史をテーマとしています。			
【どのように学ぶのか】 2年次には、特定のテーマについてグループで調査をし、問題発見・整理の方法、生産的なミーティング、ディスカッションの方法、資料検索の方法、文献の読み方、プレゼンテーションの方法などを、具体的な作業を通じて身につけていきます。 3年次は、2年次に習得した研究の技術と、発見・展開された問題を、グループ研究においてさらに展開します。グループ研究のテーマは、ゼミでの作業を通じてゼミ生の問題関心が深められていく過程で絞られ設定されるものなので、ゼミ生の問題関心の深まりがテーマ設定にとって大きな意味をもちます。 4年次は、現代経済や歴史に関連のある文献の輪読とともに、ゼミ卒業論文の中間報告を中心に進めていきます。4年次生のゼミ卒業論文は、3年次生の共同研究の成果とともに、毎年度末編集刊行される『ゼミナール年報』に掲載されます。 このゼミの醍醐味は、学生たちが、それぞれの個性を生かしながら、ひとつのものを産み出すプロセスで繰り返されるコミュニケーションにあります。お互いに異なるアイデアをもった学生どうしのコミュニケーションと、自分とは異なる時間・空間に生きた過去の人々（＝歴史）とのコミュニケーション。これらを通じて、想像力・問題発見力・コミュニケーション力を自然に身につけてもらいたいと思います。			
【学んだことはどのように生かせるのか】 いわゆる「実用的」な知識は、それ自体を目標にしても苦痛になるだけだし、しかもとても限られた範囲でしか通用しません。どのようにしたら、新しいものを生み出すことができるのか。大切なことは、時代の変化を読み取る感性と知恵を養うことであり、それは、仲間との刺激に満ちたディスカッションを通じてできることです。ゼミナールで学ぶこれらのことは、今後どのような場面でも生かされるはずです。			
【おすすめの入門書・基本テキスト】 秋田茂『イギリス帝国の歴史』中央公論新社、2012年。 羽田正『新しい世界史へー地球市民のための構想』岩波書店、2011年。 R・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年。			
【まだ見ぬ君へのメッセージ】 歴史の面白さは、自分の見たことのない時・空間に生きる人々が織りなす世界との出会いが、自分の生きている時・空間の意味を新鮮にしてくれること。これは、人と人の出会いに通じるものがあります。まだ見ぬ君との出会いを心待ちにしています。			